

2021年1月9日 伊丹市昆虫館 トークショー

みぢかなアリのしらべかた



長島聖大（伊丹市昆虫館 学芸員）

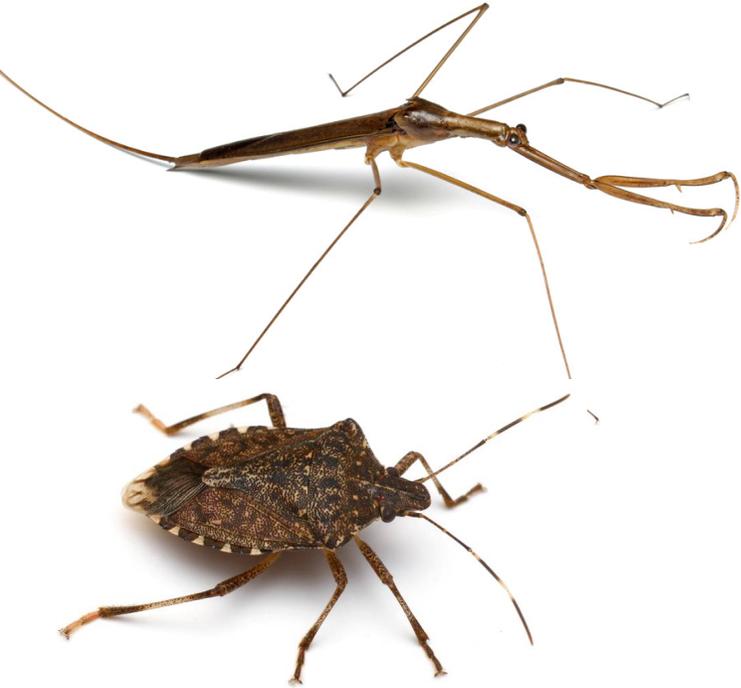
自己紹介 専門はカメムシの研究



長島聖大(ながしませいだい) 伊丹市昆虫館学芸員

1979年生まれ、兵庫県出身。高校時代にクサギカメムシの大発生に遭遇し、カメムシ恐怖症に陥る。東京農業大学農学部に入學したその日から「大嫌いなカメムシを絶滅させる研究をする!」と昆虫学研究室にもぐりこむ。カメムシについて学ぶうち、いつの間にかカメムシの魅力に取り憑かれた人となり、今は絶滅させる気などさらさらしない。

著書『日本原色カメムシ図鑑 第3巻』(全国農村教育協会)、『日本の昆虫1400①、②』(文一総合出版)。



非アリ研究者しかいない伊丹市昆虫館



非アリ研究者のアリとの出会い

2017年ヒアリの日本初侵入



アリの問い合わせが急増する

アリの質問が急増



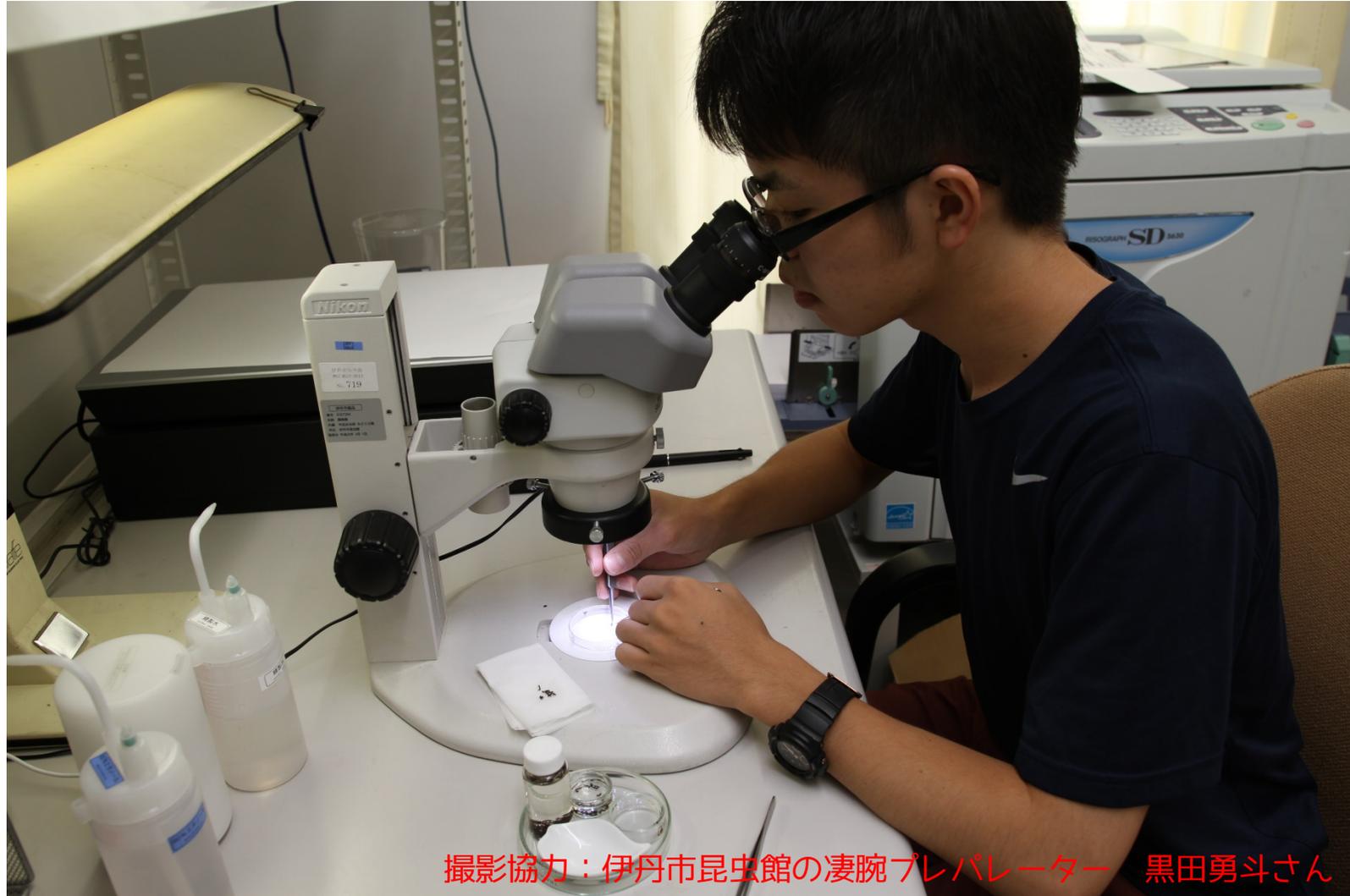
「これはヒアリですか？」

「いいえ、ヒアリではありません。」

「では、何アリなんですか？」

**アリの勉強をしなけれ
ばならないッ！**

標本作りと名前調べは実体顕微鏡下で

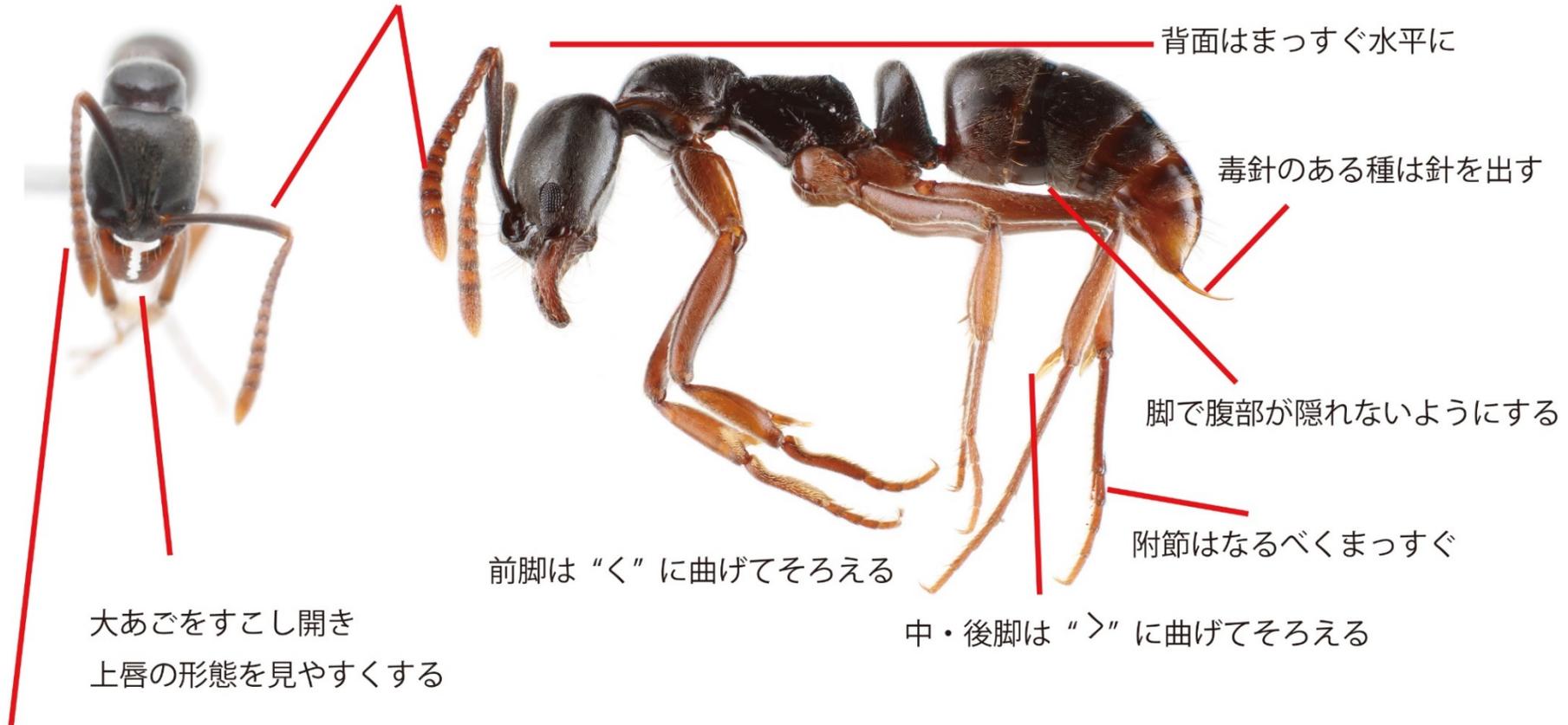


撮影協力：伊丹市昆虫館の凄腕プレパレーター 黒田勇斗さん

理想的なアリ標本の整形

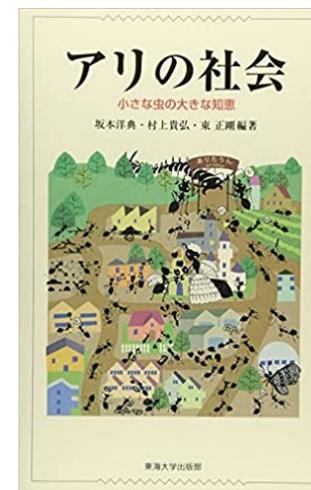
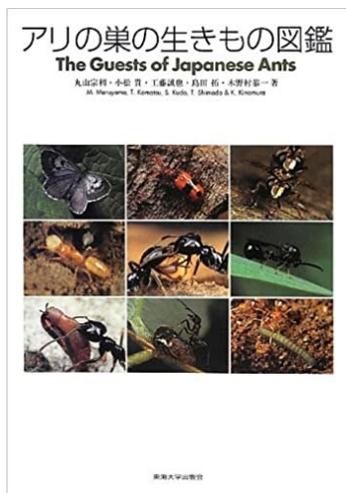
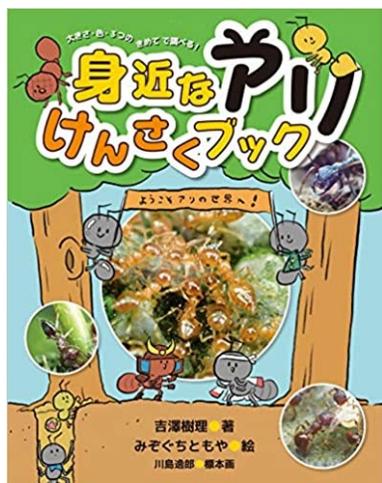
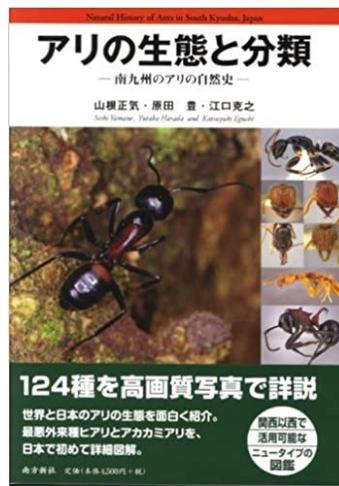
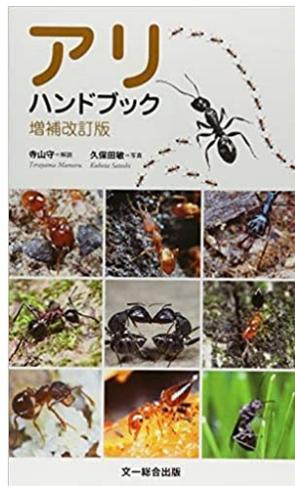
触角は頭部の側面を隠さないようにやや前方に出し
柄節（つけねの長い第1節）とそれ以降の節々
を直角にする

できれば奥の触角は柄節を上方に向かわせ、頭頂との位置関係がわかるようにする



触角の片方は頭頂に向けて
たちあげる

アリを知るためのおすすめの本



アリとはなにか

アリはハチのなかま



女王アリ

はたらきアリ

クロヤマアリ
(ハチ目アリ科)



キアシナガバチ
(ハチ目スズメバチ科)

アリはハチのなかま



トフシアリの女王

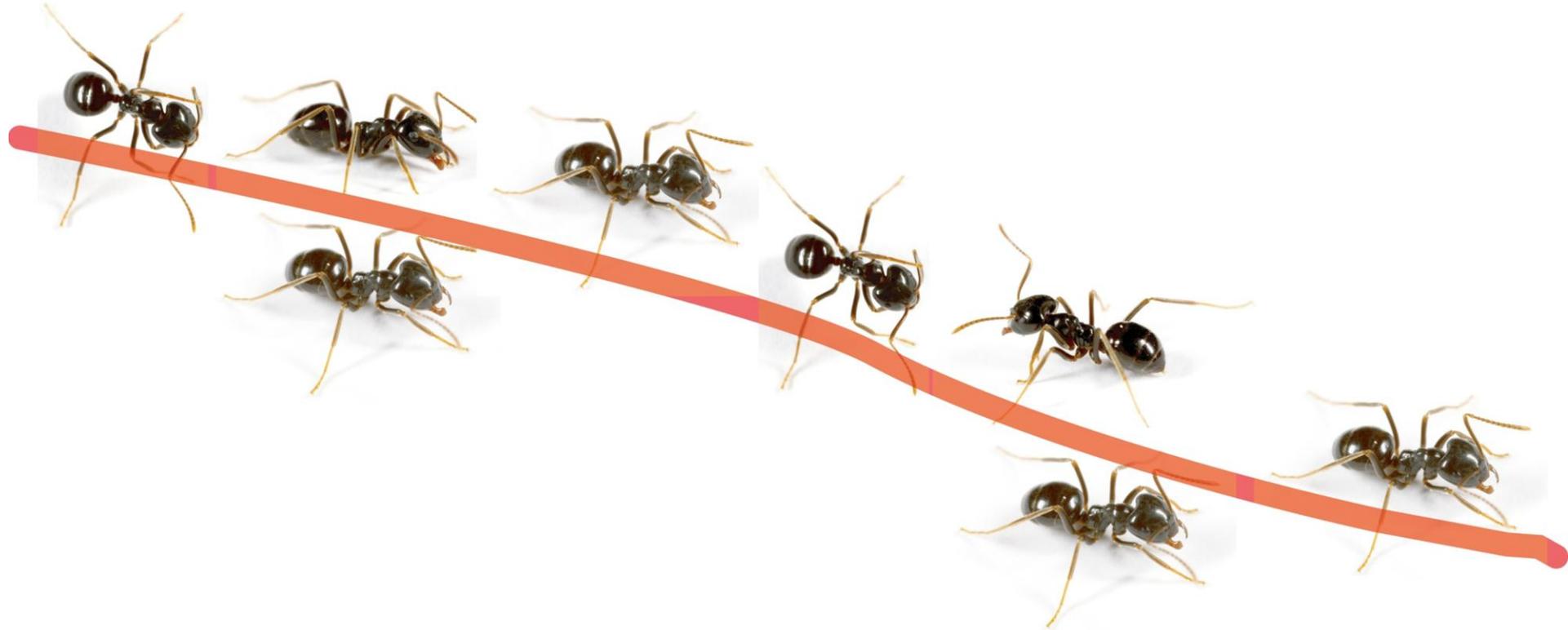


キアシナガバチ
(ハチ目スズメバチ科)

行列をつくるアリ



アリの行列ができるしくみ



餌をもったアリの道しるべフェロモン(におい)をつけて歩く。
重ね塗られて強い匂いの道が出来たら行列になる。

アリは家族で協力してくらす



トビイロシワアリ

そこからへんのアリ

は いいぞ

アリの出合い方



しゃがんで地面をながめる



そこらへんのアリ



トビイロシワアリ

もっともふつうにみられるアリのひとつ

そこらへんのアリ



アミメアリ

はたらきアリが卵を産んでどんどん増える。
ものすごい数で行列を作って引っ越しながら生活する。

そこらへんのアリ



ムラサキシジミの幼虫とアミメアリ

ムラサキシジミの幼虫は、「アリがうっとりする物質」を出してアリの体にまとわりつかせ、身をまもる。

チョウの幼虫の出す葉に依存してはなられなくなる

そこらへんのアリ



女王アリ

はたらきアリ

クロヤマアリ

公園や運動場にいる10mmくらいの灰色のアリ

そこらへんのアリ



クロオオアリ

体長20mm以上になるととても大きなアリ
木の根元に巣があることがおおい

そこらへんのアリ



兵アリ はたらきアリ



オオズアリ

はたらきアリと兵アリの2型がある。大きいエサもみんな協力してはこぶ

そこらへんのアリ



クロナガアリ

植物のタネが大好きで、巣の中にたくさん集める

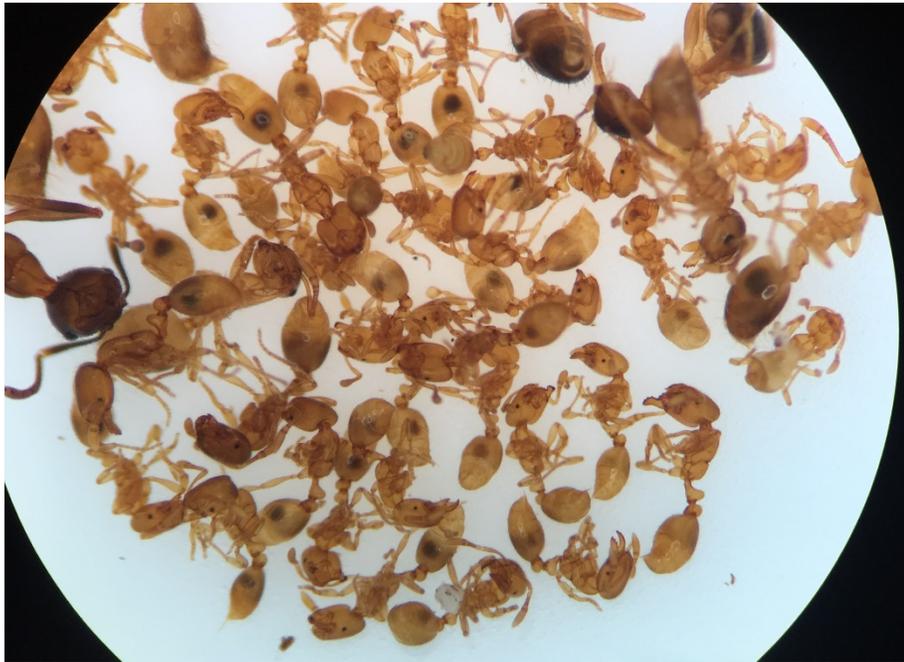
そこらへんのアリ



オオハリアリ

朽ち木にすみ、シロアリが大好き
毒針をもっていて、刺されるととてもいたい

そこらへんのアリ



トフシアリ

ヒアリと同じ属に分類され、毒針をもつが針が小さすぎて人は刺せない
ほかのアリの巣にこっそりしのびこみ、エサをぬすむと言われている

そこらへんのアリ



ケブカアメイロアリ

外来種
関西の平地ではだんだん増えてきた

そこらへんのアリ



オオシワアリ

外来種

関西の平地ではだんだん増えてきた。刺されるといたい。

そこらへんのアリ

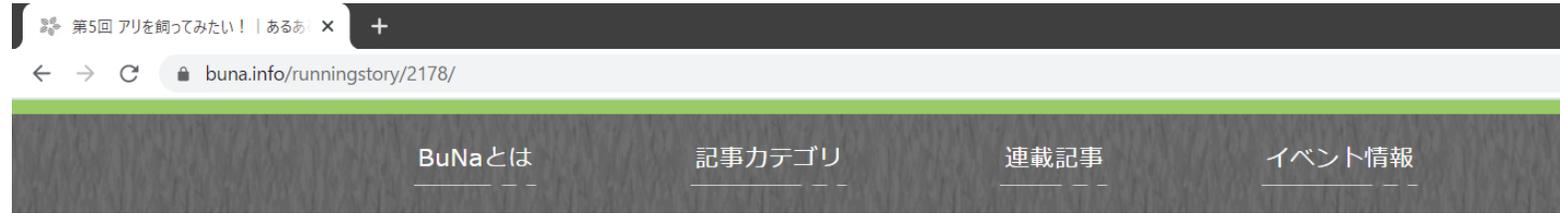


サムライアリ

そこらへんにいるけれど、なかなか会えないアリ
夏にクロヤマアリの巣をおそい、さなぎをさらう。
以降、クロヤマアリを奴隷として働かせる。

アリを飼う

アリを飼ってみる



3/20
2019

あるある昆虫相談室 おしえて! 虫のおじさん 第5回 アリを飼ってみたい!

フィールド 虫 アリ・ハチ 観察方法

ここでは昆虫館に勤める学芸員が、年間に何百件と受ける虫の質問のうち「よくある質問と答え」を紹介する連載シリーズの1ページです。
第5回はアリの飼育方法についてご紹介します。

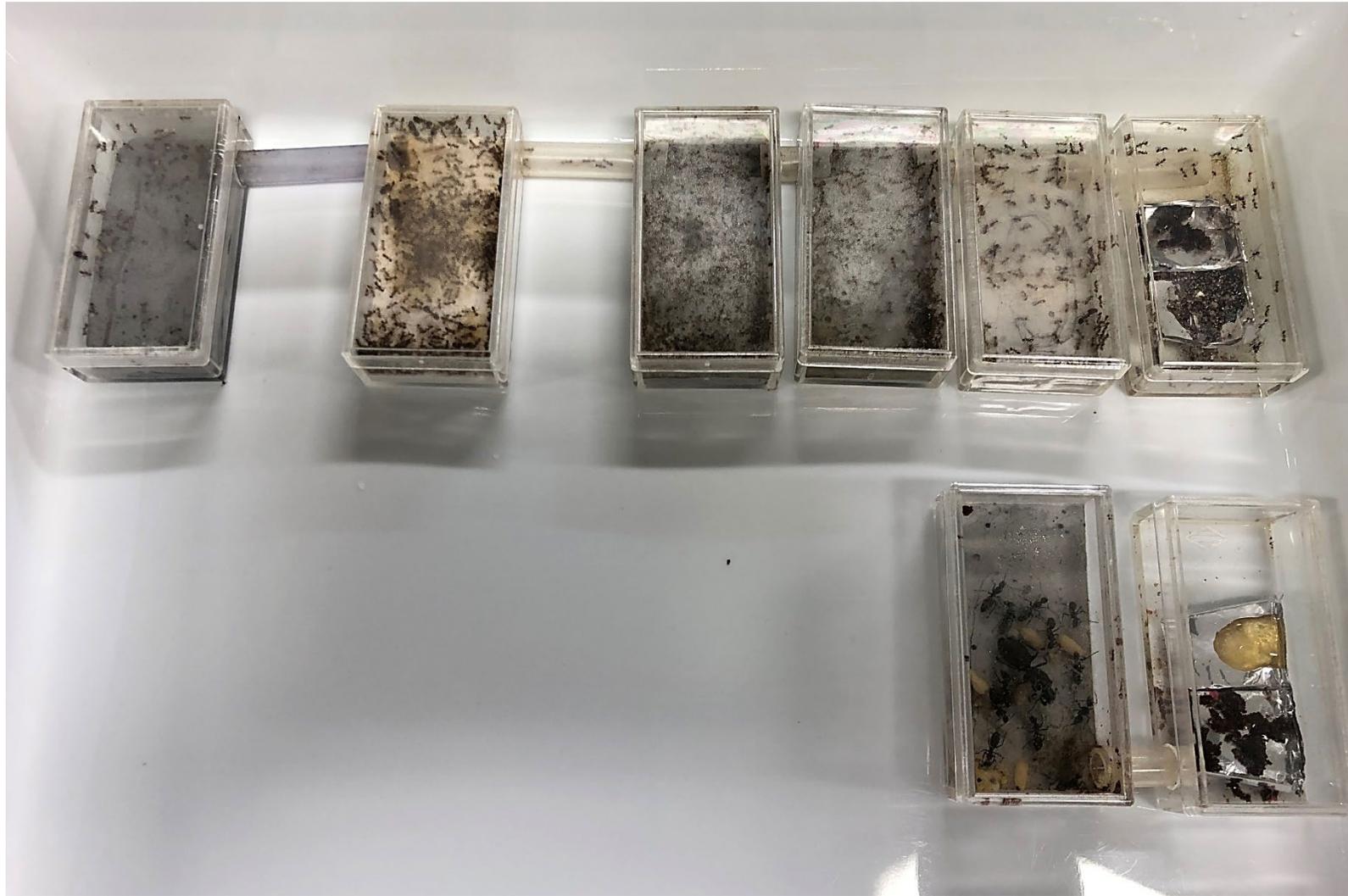
アリはとても魅力的な昆虫です。冬以外の季節であれば、地面をながめるとたいいてい場所でアリが見つかります。もう少しよく見てみると、大きさや色のちがいでだけでも何種もいることや、行列を作ってエサを運ぶ姿などの行動にも気づくでしょう。アリは一日中ながめていても飽きることはありません。

さらにアリは女王アリさえ入手できれば（これが少し難しい）、飼育はそんなに難しくありません。この記事を読んで、みなさんもアリの飼育と観察を始めてみてはいかがでしょうか？



ウェブマガジン「Buna」で解説しています（“アリを飼ってみたい!”で検索）

アリを飼ってみる



石膏をしいたプラスチックケースをビニールチューブでつないだケース

アリを飼ってみる



5月28日 女王アリをもらった



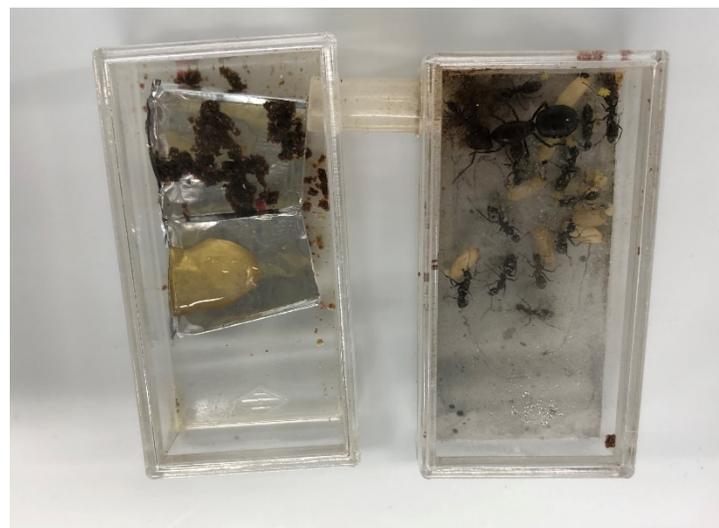
5月31日 卵をうみはじめた



7月3日 さなぎにまで育った



7月15日 さいしょのはたらきアリが羽化



8月15日 はたらきアリがふえてきた

クロオオアリの飼育

アリを飼ってみる



はたらきアリはエサを巣にもちかえり、幼虫にあたえる